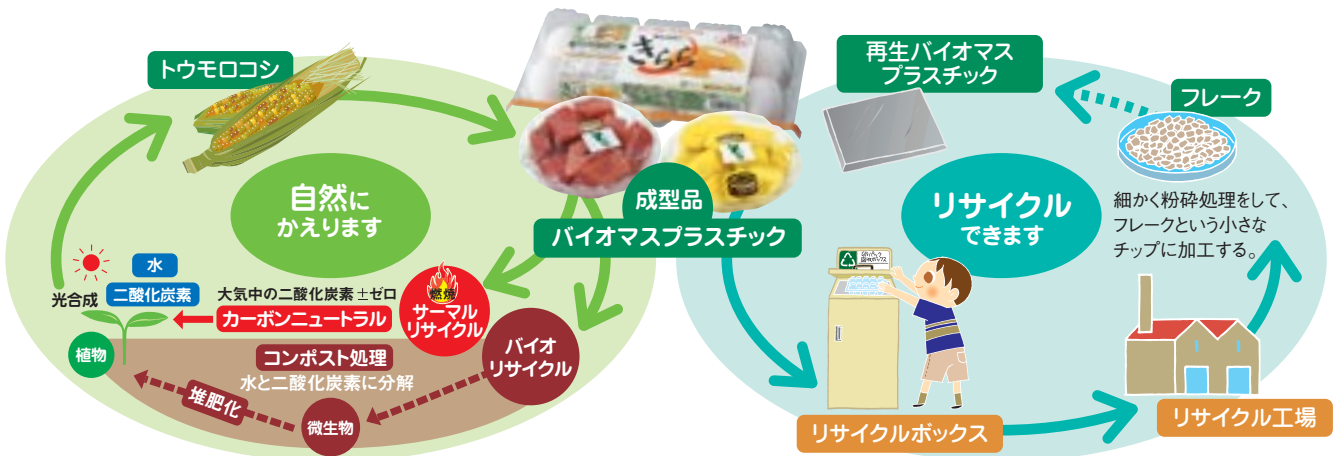


3 サステナブルな原料を使った  
容器包装への取り組み

 バイオマスプラスチック製容器の使用

バイオマスプラスチックは、従来の石油などを原料にしたプラスチックと異なり、植物を原料にしたものです。地球に存在する石油は限りある資源であり、継続的にプラスチック容器を使用するために、サステナビリティ(持続可能な)原料であるバイオマスプラスチックを使うことに取り組んでいます。

また、ユニーが容器に使用しているバイオマスプラスチックのポリ乳酸(PLA)は、原料がでんぷんなので、水分を加えながら加熱すると加水分解し、地中に埋めると微生物により水とCO<sub>2</sub>に分解されます。さらに、トウモロコシは空気中のCO<sub>2</sub>と水を吸収し、光による光合成で成長するので、分解しても燃やしても地球に新たなCO<sub>2</sub>を増やすことはありません。また、ケミカルリサイクル(原料リサイクル)が可能なので、各店舗のリサイクルボックスで回収し、リサイクルも進めています。



バイオマスプラスチックの特徴

- 1 **石油に代表される化石燃料の節約になる**  
トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、限りある化石燃料が節約できます。
- 2 **二酸化炭素を増やさない**  
バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた二酸化炭素が自然に還るだけで、地球上の二酸化炭素の増加にはつながりません。(カーボンニュートラル)
- 3 **微生物の力で水と二酸化炭素に分解**  
生ゴミなどの堆肥に入ると、微生物によって水と二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。
- 4 **リサイクルできる**  
使用済みバイオマスプラスチック容器を回収し、再生資源としてリサイクルしています。



バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチック  
使用後は水と二酸化炭素に分解され、  
自然に戻ります。

今後の課題

原料であるトウモロコシが食糧(家畜の飼料にもなります)やエネルギー(バイオエタノール)に使用されているので、これらとの競争を克服することが必要です。また、従来のプラスチックに比べ原料費が高いことと、若干熱に弱いので、用途拡大するためにはこれらの点を解決しなければなりません。